

事業のタネシート

活動地域・団体名：NPO法人84プロジェクト

事業名称1：自伐型林業（小さな林業）としまんと流域有機農業との兼業化

あらすじ

四万十川流域では、豊かな自然環境の下に有機農業を展開する農業者や企業等が増加している。しかしながら、有機農業への新規参入にあたっては、技術の習得と有機栽培が可能な圃場の確保が課題となっている。また、既存の農業者等にとっても、規模拡大にあたっての圃場や要員の確保が喫緊の課題となっている。このため、幡多地域（四万十川流域）で自伐型林業に従事する者が、山で作業しない時期（春から夏）に有機農業を兼業する。

ストーリー

幡多地域（四万十川流域）で自伐型林業に従事する者が、有機栽培農業を兼業することにより、世帯合計で500万円以上の所得を確保する。具体的には、自伐型林業に従事する者のうち、有機栽培農業に参入したい者に対して、既存の農業者や企業等の研修生としての受け入れを進め、有機栽培技術の習得と自前の圃場の確保を目指す。また、販売にあたっては、会員ルートへの販売や通信販売などの力を入れているが、単独では販売ルートの拡大に苦慮している事例も多く見受けられる。このため、四万十川流域で生産される有機農産物を「しまんと流域農業organick」としてブランド化し、それぞれの生産者の不足する産品を補完しあい、販売の拡大を実現する。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	自伐型林業と有機栽培農業との兼業化をすすめ、世帯合計で500万円以上の所得を確保し、親子4人の家族が豊かに暮らせる地域社会。	①自伐型林業推進要員としての地域おこし協力隊の採用及び地域の自伐型林業従事者の活用 ②施業林の確保・斡旋のための市町村等の積極的な関与 ③有機農業研修希望者の受入れ先確保 →しまんと流域農業オーガニックプロジェクト（農水省山村活性化対策事業）との連携
②課題	有機栽培技術を習得するための受入れ先（研修員）の確保と独立する際の有機農業が可能な圃場の確保・斡旋。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	それぞれの地域で、自伐型林業と有機栽培農業を兼業することにより、世帯合計で500万円以上の所得を確保する仕組みを作る。	
④地域資源	四万十川流域のヒノキや杉などの豊かな森林資源と有機栽培農業に適した豊かな自然環境	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	①自伐型林業を推進することによる森林の成長を超えない素材生産と森林に優しく土砂災害を誘発しない作業道 ②四万十川流域の安全・安心な農産物	
⑥担い手（Who）	①県外からの移住者を中心とした自伐型林業就業者 ②既存の農業従事者による自伐型林業の兼業	
⑦事業で生じる循環	①50ha程度の施業林を確保することにより、森林の成長量を超えない素材生産（収入）が持続的に可能となり、200年の森が形成される。②四万十川流域で環境を守り未来につながる有機栽培農業の継続	
⑧事業で生じる成果	移住者が増加することにより、地域の過疎化を緩やかにするとともに、福祉活動や消防要員など地域の担い手の確保につながる。また、自伐型林業の普及に伴い、里山の手入れや土砂災害防止につながる。	